



平成13年から17年にかけて、大学当局の援助も受けながら砂入り人工芝コート3面を整備した結果、テニスのプレー環境が劇的に改善しました。また、技術コーチ、フィジカルコーチを新たに導入するなど監督、部長の尽力もあり、多少の波はあるものの硬式庭球部の戦績も順調に伸びてきました。個人成績で出場するインカレ選手をコンスタントに輩出するほか、団体戦で大学日本一を決める学生王座戦の北海道予選では男女とも優勝することが多く、全国各

② 硬式庭球部の近年の戦いぶり

平成14年(2002年)6月には創部100周年記念祝賀会(コート開き)を開催し、当時の中村睦男北大総長と榎庭会会長など4名で記念試合を行いました。さらに、平成16年元庭球部長中嶋博氏(現在農学部名誉教授)の退官記念事業およびDコート整備事業として、寄附金500万円余りを集め、この時は大学当局からもコート整備費用として多くの援助を受け、残り1面の砂入り人工芝コートが平成17年に完成しました。

有意義に利用されてきたテニスコートではありますが、人工芝コートの一般的な使用年限である10年が過ぎており、ベースライン周辺を中心に人工芝の磨耗がかなり進み、一部に裂け目が生じるという事態となりました。そこで、使用頻度の高いメイン2面のコートだけでも砂入り人工芝で再整備することを最大目標とし、榎庭会がその方策を探ることが始まりました。実績のある3社の見積もり比較を行った結果、コート2面の砂入り人工芝での再整備費用は税込み800〜900万円となりました。

③ シーズン終了後のテニスコート状況と再整備のスタート

また、7大学戦ではかつては雪国のハンディで下位に甘んじることも多かったのですが、近年は互角以上の戦いぶりです。平成28年は男女とも東大と優勝を争い、女子は圧勝で優勝、男子は互いに4勝で迎えた最終戦もファイナルセット5-5までもつれ込む戦いで惜しくも準優勝となるなど、頼もしい戦いぶりを見せています。

④ 大学当局との折衝

コート改修に関する大学当局との折衝は、平成17年の初回のコート整備以降、断続的に続いてきました。榎庭会では、初回整備(オムニ化)は自らかかなり頑張ったのだから、次回以降の再整備は大学当局にお願いすべきとの意見は強くありました。安川本人が来札する年2回ほどの機会には、柳村現庭球部長(大学院農学研究科教授)を通じて北大総長に面談を求め、同時に担当の学生支援課を訪問して、コート再整備の大学支援を要請してきました。

また、前庭球部長の上田一郎農学部教授が北大副学長となつていくことから、様々な情報収集や働きかけを行ってきました。ただ、大学予算の削減は、我々が折衝を重ねている間も年を追って厳しくなっていました。折衝時に教員の人員削減や大学使用電気代の削減にまで話題が及ぶようになり、緊急整備を要する榎庭会として再度自力整備やむなしという

⑥ テニスコート改修その後の展開(平成29年8月以降)と工事の完成

平成29年8月寄附金が目標の800万円をほぼ達成し、工事発

⑤ テニスコート改修の体制・資金集め

事業は安川を代表とする榎庭会の「北海道大学硬式庭球部テニスコート改修及び庭球部支援事業」とし、資金は榎庭会独自の寄附募集で賄い、改修工事を自ら行い北大に物納することとしました。特に次世代を担う若手卒業者に協力を呼びかけ次回以降のコート補修に備えました。

北大硬式庭球部 テニスコート改修事業報告

オムニから夢のハードへ 奇跡のコート改修



テニス部OB・OG・現役部員 集合写真

① 過去のテニスコート改修の経緯

北海道大学硬式庭球部は明治35年(1902年)創部、今年(平成31年)で創部118年を迎える歴史ある運動部です。東京大学、他の国立7大学や慶応大学、早稲田大学と並ぶ黎明期の学生テニスを支える存在でした。テニスコートは以前現在のクラーク会館の場所にあったと聞きますが、昭和35年(1960年)クラーク会館建設を契機に本部図書館裏に移り現在に至っています。テニスコートの材質は一貫してクレイ(粘土)で、毎年シーズン

北海道大学硬式庭球部OB・OG会である北海道大学榎庭会は現役部員のテニス環境の充実と技術の向上を祈念して、自ら資金を募り、北大図書館裏にある硬式庭球部使用テニスコート3面を全米オープンコートに近い仕様で改修し、北海道大学に寄贈しました。以下にその顛末を記します。



北海道大学榎庭会(北海道大学硬式庭球部OB・OG会) 前会長 安川淳一 (S42 理学部 高分子学科卒)



元テニスコート改修 特任幹事 桑田雄平 (S49 工学部 建築工学科卒)

前の早春に1、2年生部員がコートを掘り起こし、にがりを混ぜてローラーで固めるという作業を繰り返してきました。しかし、数年を経てクレイが徐々に劣化し、イレギュラーバウンドが多くなってきたため、平成13年に創部100周年記念事業として砂入り人工芝(オムニ)コートに改修することを榎庭会で決議しました。工事費用に関して大学当局と幾度も折衝しましたが、本体工事までは大学側が予算化できないとのことで、榎庭会がOB・OG中心に寄附を募り、約1200万円(個人345名、企業・団体17名)を集めて、使用コート3面のうち2面の砂入り人工芝コートが平成14



注に取り掛かりました。改修計画では砂入り人工芝コート2面の改修を目指してきました。が、施工実績のある会社とコンタクトを取ったことから施工費用850万円程度で3面の改修が可能であることが分かりました。さらに様々な交渉を経て、当初は手が届かないと考えていたハードコートでの整備が、新工法による試験施工という形であれば、工事可能ということになりました。学生の全国大会の公式戦が人工芝コートからハードコートに移行する中、北大コートの将来像を学生や監督、楡庭会役員・会員が一堂に会して議論し、ハードコート3面整備のコンセンサスが得られました。

今回の新工法は従来の人工芝コートを固化し、その上にハードコートを施工するものです。試験施工ということで大幅な値引きを実現する一方、コート寄贈を受ける北大側の了解や性能保証等の問題に関しても大学当局と協議しました。概ねこれらの問題が解決して、8月施工業者と施工契約を締結。工事は10月からスタートして、11月中の完了を目指しました。しかし、天候不順や落葉などの悪条件に阻まれ、翌年に持ち越し2018年4月中旬より再工事、

5月上旬ようやく完成しました。その間は北大学生支援課と施設企画課には学内調整や、コート周辺の樹木伐採など多くの支援を受けました。

7 テニスコート改修完成 記念セレモニー

平成30年5月12日、北大当局関係者と楡庭会会員、現役員、施工業者が集い「北海道大学硬式テニス部テニスコート改修完成記念セレモニー（贈呈式・記念試合・祝賀会）」及び若手OB・OG主催の親善テニス大会を行いました。贈呈式では安川楡庭会会長から名和北海道大学総長（総長海外出張のため代理で北大学務部学生支援課・富樫課長）へ目録を贈呈



目録贈呈

し、北海道大学長谷川理事からのお礼の言葉が代読されました。鏝金者は銘盤に氏名を刻みコートサイドに掲げてあります。

8 おわりに

楡庭会のこれまでのテニスコート改修は既述のように、大学当局の協力は大いに得ましたが、基本は自力整備でした。このことは楡庭会の結束を高め、現役学生にも自覚を促すことにはなりましたが、今後も長期にわたりこのような状況を維持できるとは限りません。

他の運動部も同様の状況かと思えます。今後は、大学当局と一緒に運動部施設の更新方策を



富樫課長挨拶

模索する必要があると考えます。最後になりましたが、快く低価格で施工を引き受けて下さり、素晴らしいハードコートを完成して下さった（株）東旺に心からお礼申し上げます。



記念試合



寄附者銘盤 除幕式

書評コーナー



広報委員会発・北水ブックスシリーズのご紹介 『海をまるごとサイエンス』 『出動！イルカ・クジラ110番』

みなさん、もう「北水ブックス」のことはご存知ですか？水産学部の先生が中心になって、水産科学の魅力語るシリーズです。

第1弾は『海をまるごとサイエンス』で、昨年8月に発行されました。著者名はなんと「海に魅せられた北大の研究者たち」。11人の共著者が、最新の研究や活動を、ライブ感、わくわく感たっぷりで紹介。クジラやイルカ、サケ、チョウザメ、ヤドカリから微生物まで、さらに海の渦、北極海、深海底、メタゲノムの話など、興味深い話題満載です。

第2弾は11月発行の松石隆著『出動！イルカ・クジラ110番』海岸線3066kmから視えた寄鯨の科学』。海岸に打ち上げられたクジラがいると聞けば、現地に駆けつけて貴重な研究試料採取する、網にかかったイルカがいれば一時保護して海へ帰す。そんな活動の中心となって奮闘している著者が、学生とともに北海道を駆け巡り、積み重ねてきた調査の実際、驚きのエピソード、そこから

生まれた研究の数々が知的好奇心をくすぐります。

特徴は、カラー写真や図がたっぷり、しかも大きく掲載されていること。眺めているだけで楽しくなります。高校生にも読んでほしいというだけあって、文章もわかりやすく、専門知識は不要です。

このシリーズ、出版社から安井肇研究院長（当時）に企画が持ち込まれ、何度も打ち合わせを重ねて実現したそうです。担当編集者は、このシリーズのために函館オフィスを開設したとか。ウラ表紙の真ん中には北水の旗が印刷されているという力の入れよう！今後2〜3か月に1冊のペースで発行される予定とのこと。



A5判、128ページ、オールカラー。お問い合わせは海文堂出版(03・3815・3292)まで。(1,800円+税)

東京基準より北海道基準、北の夢。

ぷらう

代表取締役社長 石川 裕一

株式会社 ぷらう

〒060-0063

北海道札幌市中央区南三条西4丁目12-1 アルシュビル8階

TEL : 011-219-2223 FAX : 011-219-2885